



芝小だより

第七月号

発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
FAX:03-3456-3071



常に「人権感覚」を磨くために

― 私共の研修報告を兼ねて ―

校長 齋藤幸之介

六月十八日の朝方に発生した地震は、大阪府を中心に大きな影響を与えました。一つの幼い命を含め、五名の方々がお亡くなりになりました。御冥福をお祈りいたしますとともに、私共はこのことを忘れずに子供たちの安全を第一に考えて教育活動を行うことを改めて確認した次第です。

人権についての子供たちへの指導と私共の研修

さて、第六月号では、菊原寛之副校長より、東京都教育委員会が定められたあひ月間についてのお話をさせていただきました。七月には、本校で人権週間を設定します。私共は、どの子供も安心して生活できるようなようにするために、相手の立場に立つ大切さやいじめを起さずにはならないことなどを引き続き指導をしていきます。

同時に、私共も「人権感覚」を磨き続けなければなりません。もちろん私共は常に子供たちに細心の注意を払うべく努力しているつもりですが、しかし、例えばほんの少しの気の緩みで子供たちを傷付けているかも知れない、と考える謙虚さをもちたいと思っています。

そのために、都内の公立学校の校長は、毎年人権教育の研修を受講します。私共は人権教育についての考え方を確認し、また具体的な事例を学ぶことを通じて人権感覚を磨

こうとしています。このことを基に、私は本校での会議や研修会で指導をしています。

六月に行われた人権教育研究協議会では、私共が人権についての理解を一層深め、さらに人権感覚を磨く素晴らしい機会であったと思っています。

子供たちの成長に資する大人のあり方

御講演くださったのは、子どもの虹情報研修センター研修部長の中垣真通先生でした。多くの虐待を受けた子供たちと接してこられた中垣先生は、幼児期の育ちも取り上げられながら、子供達との接し方についてのあり様をお話してくださいました。

例えば、赤ちゃんが授乳の際に母から「注目」されてアイコンタクトをしながら「安心感」を得られることや、一緒に遊んでもらうという「共同」の活動を通して褒めてもらって「自信」をもてること、また「共感」してもらうことを通じて「喜び」を味わえるという肯定的な育ちがある一方で、子供たちが「放置」されることによって「不安」を感じたり、強い指導を始めとする「支配」的な関係から恐怖を味わったり、子供が大人の言うことに「齟齬」つまり食い違いを感じながら「忍従」を強いられたりする場合も見られる、という紹介がなされました。後者については、「良いものをもらい損ね、不適切なものを与えられた」との説明もありました。

肯定的な育ちには、たとえ失敗しても戻れるところ、つまり「安全基地」があれば、そこで落ち着きを取り戻し

て元気を回復させ、また冒険・挑戦を続けます。逆に、失敗しても甘やかさない、と、大人が子供の逃げ道を絶ち、弱音を吐かせず、必死に挑戦させ、成功するまで許さない、という姿勢で育てられると、子供たちは常に強迫的に頑張ることになります。前者を「安心の成長サイクル」、後者を「安心抜き成長サイクル」とも言っています。

後者が続けば、未来への絶望を味わうようになり、またこのことが、叱責するといつしか反発・反抗・興奮・パニックなどにつながっていくそうです。子供たちが見せる反抗的な態度は、実は不安の裏返しでもある、とお話からは、改めて子供たちを一層深く理解する大切さをお教えたのだと思います。

中垣先生は、「ならぬものはならぬ」という指導も大切であるとおっしゃり、つまるところ、信頼関係を築きながら子供たちの成長に関わっていくことが大切である、とお教くださいました。

改めて、子供たちの幸せのために

先般報道された、目黒区の幼児虐待死には私共の心がえぐられる思いがしました。船戸結愛ちゃんの文章は、両親の愛を求める痛々しい思いが綴られています。このような悲劇が起ること自体が不思議、と思いますが、私共は改めてこのことをしっかりと見つめるとともに、冒頭に申し上げた「人権感覚」を磨くために努力していきます。同時に、常に謙虚になることが子供たちの幸せにつながる、と考えていきたいと思っています。